



2026年9月18日
第50号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第6号

**「京浜東北・根岸線のワンマン訓練における不安全な教育内容を是正し、
発車の3条件を守り安全第一の訓練実施を求める」緊急申し入れ 本日提出!**

JR東労組横浜地本は、2026年7月15日に横地申第1号「京浜東北・根岸線ワンマン運転について」に関する説明申し入れ（その1・運車）を提出していますが、団体交渉日程は未だ示されません。施策内容の説明が進まない中で、横浜事業本部磯子乗務の9月の車掌定例訓練において、会社は駅社員による乗降終了表示掲出を受けてドア閉扉を行う、横浜駅と関内駅北行におけるワンマン訓練について、2026年10月1日以降のワンマン訓練では、

①駅到着後に運転士が駅社員へ車外スピーカーで「ワンマン訓練中につき合図省略」と伝える。

②運転士が車載モニターでホーム上の安全を確認しドア閉扉を行う。

③ドア閉扉後は車掌が見える範囲の側灯の滅を確認して発車ブザー合図を運転士へ送る、

という内容を示しました。しかし、この訓練方法では車掌標準集に謳われている発車の3条件の1つ、「乗降が終了していること」を、車掌が確実に確認できない状態で発車ブザーを送ることを教育しており、安全上大きな問題があります。車掌標準集に定められている内容を会社自ら逸脱することになり、運転取扱上あり得ない内容であることから到底認めることはできません。

会社は「決意と約束」の中で、仕事の中で危険な取扱いを見つけた場合は直ちに報告を行うことを社員に求めています。訓練では社員から「不安全な取扱いであり納得できない」と問題意識を伝えても、管理者が「運転士が確認しているから問題ない」と回答を繰り返し、多くの乗務員が「この取扱いで事故事象が起きれば車掌の責任にされるのではないかと不安を抱えています。これまで発車の3条件を確実に守ることで「安全」をつくり上げてきましたが、お客さまからの「信頼」を壊すような取扱いを実施することは、安全をトッププライオリティと位置付けている会社であってはならないことです。

組合員・社員が安心して働ける環境を整え、安全な鉄道輸送をお客さまに提供するため、下記の通り申し入れを行いますので、誠意ある回答と早急な労使議論の場をつくるよう強く要請します。

記

1. 京浜東北・根岸線のワンマン訓練時において、安全・サービスレベルを低下させることなく、発車の3条件でお客さまの乗降状態（荷挟まり含む）等を確実に確認し、安全に鉄道運行を行える環境と体制を整えること。
2. 駅社員による乗降終了表示の掲出を受けて乗降扱いを行っている横浜駅と関内駅北行について、現行の疑似ワンマン訓練の方法では車掌による前方の安全確認が行えず、車掌標準集に謳われている出発合図を送ることができないため、立ち番の駅社員の協力を受けて出発合図を送ることができる体制を構築すること。

「決意と約束」は
嘘だったのか!?



安全を蔑ろにする経営姿勢でいいのか!?
「規程」に反する訓練内容は絶対に認められない!